

別記様式第1号（第4条関係）

木津川市子ども・子育て会議 開催結果要旨

会 議 名	令和5年度第1回木津川市子ども・子育て会議		
日 時	令和5年8月2日（水） 午後1時30分～午後3時00分	場 所	木津川市役所 5階 全員協議会室
出 席 者	委 員	21人	
	その他出席者	なし	傍聴人の数 0人
	庶 務	こども宝課	■公開 □非公開 □一部非公開
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>（1）「木津川市子ども・子育て支援事業計画」の進行管理について 【資料1】【別表1】【別表2】【追加資料1】</p> <p>（2）第3期木津川市子ども・子育て支援事業計画の策定について 【資料2】</p> <p>（3）公立保育所の認定こども園への移行について（案）【資料3】</p> <p>（4）令和6年度木津川市保育施設利用調整基準点表の改正について 【資料4-1】【資料4-2】</p> <p>（5）その他【追加資料2】</p> <p>4 閉会</p>		
会議結果要旨	<p>1 開会</p> <p>司会進行により開会。事務局より会議成立要件定足数の報告。 （市長あいさつ及び委員紹介は割愛）</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>安藤会長より、本日の会議録の署名委員について、会長のほか 中西委員を会長から指名された。</p> <p>3 議事</p> <p>（1）「木津川市子ども・子育て支援事業計画」の進行管理について、 資料1、別表1、別表2、追加資料1に基づき説明。</p> <p>（2）第3期木津川市子ども・子育て支援事業計画の策定について、 資料2に基づき説明。</p> <p>（3）公立保育所の認定こども園への移行について（案）、資料3に基 づき説明。</p> <p>（4）令和6年度木津川市保育施設利用調整基準点表の改正について、</p>		

	<p>資料4-1、資料4-2に基づき説明。</p> <p>(5) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高の原幼稚園交流事業の実施状況について、追加資料2に基づき報告。 ・令和5年度子どもの遊びイベントについて説明。 ・「保育進学フェア」イベントについて紹介。 <p>4 閉会</p>
<p>会議経過要旨</p>	<p>1 開会</p> <p>事務局より、司会進行・開会。市長あいさつ及び新しい委員を含めた紹介は、時間の関係上割愛させていただき旨のお詫びと、会議成立要件定足数の報告。</p> <p>子ども・子育て会議は、地方自治法、木津川市子ども・子育て会議条例を設置根拠として設置される市の附属機関である旨等説明。</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>大変暑い中、足をお運びいただき有難く思う。コロナの収まりも見えない中ではあるが、本日の議事について、皆様の貴重なご意見をいただきたいと思う。</p> <p>本日の会議録の署名委員については、中西委員を指名する。</p> <p>3 議事</p> <p>主な意見・質疑等はつぎのとおり (○：質疑・意見 ⇒：質疑に対する返答)</p> <p>(1)「木津川市子ども・子育て支援事業計画」の進行管理について (資料1、別表1、別表2、追加資料1)に基づいて説明。</p> <p>○資料の補足説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響でなかなか事業が実施できなかったものが、令和4年度は事業を再開したことや、少し形を変えて実施したため、検討・計画中の事業が大幅に減った。 ・昨年度、今後の方向性が「拡充」とされていた多様な保育サービスの提供という項目が、国の保育施策の動向が不透明な状況になっている状況を鑑み、拡充から継続維持に変更している。 ・事業量の実績について、主要な指標となっている教育・保育の提供量は、見込み量と実績に大きな差はみられない。経年変化についても大きな変化は見られない。 ・2号認定が微増だが、増えたり減ったりと一定の傾向が見られない。人口増がピークを迎え、今後減少傾向となるか現状維持か今後の動向

が必要になってくると評価している。

・地域子育て支援拠点について、計画値から大きく下がっているのはコロナの影響で利用実績が大幅に下がったと考えている。令和4年度から回復傾向にあり、令和5年度についても利用は増えている。

・病児・病後児保育の推移については、計画値を大幅に下回っており、令和3年度、令和4年度は実績値ゼロといった状況である。一方、令和5年度は7月末時点で既に57件の利用実績となっており、今までニーズが隠れていたような状況となっている。

・ファミリーサポートセンター事業については、計画値から令和3年度・4年度と実績値が大幅に増えている。

・特に、病児・病後児保育事業とファミリーサポートセンター事業の2事業については、次期計画では正確なニーズ量を把握し、提供体制の確保に努めたい。

【質問・意見】

○病児・病後児保育とファミリーサポートセンターでニーズが捉え切れなかったとのことだが、次期計画に向け今後ニーズ調査を行うということで、具体的にどういうことをされるのか。

⇒計画策定に当たり、対象者4,000人（未就学児保護者2,000人、小学生保護者2,000人）に対してアンケートを行う。結果を分析し、今後どれくらいニーズがあるのかを掴むのと、併せて過去5年間の実績値、人口推計の3つにより予測し、計画策定する。

(2) 第3期木津川市子ども・子育て支援事業計画の策定について
〈資料2〉に基づいて説明。

【質問・意見】

○特になし

(3) 公立保育所の認定こども園への移行について（案）
〈資料3〉に基づいて説明。

【質問・意見】

○教育時間について、幼稚園の子ども達は8時半から13時までとのことだが、現在幼稚園は14時までだったと思う。時間的に1時間短くなっている気がするが、今はどういった教育時間となっているか。

⇒木津川市立公立幼稚園では、月曜日から金曜日まで運営しているが、月曜日と水曜日は8時半から11時半までで給食は食べずに降園いただいている。火曜日、木曜日、金曜日は給食提供・弁当持参で14時

降園となっている。認定こども園の場合は、月曜日から金曜日まで給食を食べていただいて13時降園ということで事務を進めている。

○認定こども園は給食ということになるか。

⇒現在の保育園では自園調理での給食を提供しているため、移行後も3歳児から5歳児まで自園調理の給食を食べていただくことを想定している。

(4) 令和6年度木津川市保育施設利用調整基準点表の改正について
(資料4-1、資料4-2)に基づいて説明。

【質問・意見】

○育児休業延長を希望する場合大きく減点される部分について、確かに申請して辞退することは無駄であり、本来入りたい方が入れないということになるが、社会事情としてそうせざるを得ない保護者がいるということに関しては、減点ではその方々の状況を理解して対応できているように思えない。受付業務の対応としてはここまでしかできないとは思いますが、これ以外に市としてこういった困っている保護者の現状に対してどういう風に対応できるのかと思う。

⇒育児休業延長制度は、元々どの園にも入れず家で見るとしかなく状況を鑑みて、育児休業給付金が出ることとなっているが、育児休業延長を目的とし、決定しても入園しないことを前提とした申請があるのが現状である。

本課としては、受付業務として育児休業目的で申請され、決定することにより本来入りたい方が入れない状況を改善することや、入園準備をしている保育施設のために新たに作ったものである。

育児休業制度自体に疑問点もあり、様々な方法を検討したが、利用調整を行って待機と決定し、待機通知書を出すという流れを踏むことが現行法上は必要とのことから減点とした。

⇒行政は保育認定を行った上、利用調整を行うこととなっており、申請されると結果を出さなければならないルールとなっている。行政処分を行わなければならないが、国の給付制度と保育制度とのジレンマだと思っている。

育児休業を延長するために、根拠として待機通知が必要であり、そのためにあえて入れない所を選ぶが、決定してしまうということが起きている。毎年利用調整は社会情勢の変化を勘案し事務局としても見ているが、今回お互い良い形になるために、他の自治体の事例を勘案しながらこういう形に変更したいという提案である。

○親御さんから耳にした話だが、通勤時間1時間以上の会社に勤めている方が自宅でリモートワークをされていて、本来迎えの時間が遅くなると思われるが、皆と同じ時間に迎えに来られる。リモートワークという分野が出てきたことで、通勤時間の加点があるのにリモートワークによって通勤していないことが起こっており、おかしいと感じたので意見として申し上げておく。点数の加点を考えられる時に、リモートワークという分野も考えていただけたらと思う。

⇒貴重なご意見いただきありがたく思う。コロナ渦で状況も変わっている中で今回大きな改正をすることになったが、次回基準点を検討する際に参考にさせていただく。

(5) その他

- ・高の原幼稚園交流事業の実施状況について
(追加資料2)に基づいて報告。
- ・令和5年度子どもの遊びイベントについて

○昨年度実績と今年度実施について説明

- ・昨年度から実施している子どもの遊びイベントは、年3回プレイフルパークという名称で大々的に実施した。この取り組みは今年度も遊びを通して交流の場を創出することや、子どもの健やかな成長を育むといった基本のコンセプトは継承した上で、実施を予定している。
- ・今年度は新市長となった時期から、予算の都合上2回の実施を予定している。
- ・地域は、確定していないが加茂・山城で1回ずつ実施する方向で調整を進めている。
- ・実施にあたっては、赤ちゃん学研究センターや子育て支援センターのコーナーを設け、取り組んでいきたいと考えているのでご協力をお願いしたい。

【質問・意見】

○特になし

- ・保育進学フェアについて

○チラシに基づき説明。

- ・様々な事業をするのに人材がない・人材確保しましょうと聞くが、人材そのものがあるのかという問題がある。先日も木津川市と精華町でイオン高の原で就職フェアがあったが、養成校の学生は少ない参加だった。

	<p>・少子化で18歳人口が減り、保育士・幼稚園教諭の養成校が少なくなっている。夏休みに高校生が保育士の現場体験をしているので、保育士になりたい気持ちは持っているが、養成校に来る保証は全くない。</p> <p>・本イベントは、ちょうど夏に現場体験をした高校生を対象に9月に養成校の入試説明会をしてはどうかということから開催となった。現場体験をした修了証をこの会場で渡すことで参加してもらい、入試説明を行うことで、何とかうまく繋げたい。人材が無いと言ってばかりではなく、何とか増やせないかと保育協会と保育連盟が共同で主催となり実施されるので、保育施設の方についても周知等よろしくお願ひしたい。</p>
<p>その他特記事項</p>	<p>特になし</p>
<p>署名欄</p>	<p>木津川市子ども・子育て会議 会長</p> <p style="text-align: center;">安藤 和彦</p> <hr/> <p>木津川市子ども・子育て会議 委員</p> <p style="text-align: center;">中西 由美</p> <hr/>